

「人々の健康生活」の実現をめざします

vol. 36
2025.9

中支部だより

広島県看護協会中支部会員数

保健師	45人 (入会率27%)
助産師	98人 (入会率75%)
看護師	2,851人 (入会率62%)
准看護師	29人 (入会率 5%)
合 計	3,023人 (入会率55%)

中支部長
ごあいさつ看護の力をもって地域の健康と暮らしを守る
「つなぐ看護」を目指した支部活動

広島中支部長 兼重 薫子 (中国電力株式会社中電病院)



広島県看護協会中支部の会員の皆様におかれましては、日頃より支部活動へのご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。この度、広島県看護協会中支部の支部長を拝命いたしました兼重薫子です。微力ではございますが、役員と力を合わせて中支部の発展と地域看護の推進に尽力してまいります。何卒よろしく願いいたします。

広島県看護協会中支部は、患者さんや地域住民の皆様へ寄り添う看護を提供することを目指し、看護職の質向上を図るために研修会や研究発表会の開催に取り組んでまいりました。また、進路相談会や「まちの保健室」などの地域住民を対象とした活動を通じて、地域の健康生活をサポートすることを目的としております。これまでに培われてきた実績への敬意を表し、その志を継ぎ、更なる発展を目指して邁進する所存です。

昨今、少子高齢化の進行や単身世帯の増加、生活習慣病の重症化予防、メンタルヘルス対策など、地域における保健福祉の課題はますます複雑化しております。日本看護協会が掲げる「看護の将来ビジョン2040」では、多様化する価値観に対応するための地域包括ケアの推進、ICTの活用、そして看護職自身のキャリア形成支援の重要性が明示されています。また、災害時の看護支援体制の整備も喫緊の課題と認識しております。

令和7年度、広島県看護協会は黒瀬真理子広島県看



令和7年度 役員全員集合

護協会会長のもと、新体制でのスタートとなりました。今年度の活動目標として「看護職の人材確保と定着の推進」「地域包括ケアシステムの強化への取り組み」「災害時の看護支援体制の整備及び対応力の強化」を掲げております。中支部もこの方針のもと、各種事業計画を着実に推進して参ります。看護の力をもって地域の皆様の健康と暮らしを守る「つなぐ看護」をさらに発展させるとともに、会員の皆様の健康を守る活動を心がけてまいります。

最後になりますが、支部活動を支えていただいている多くの会員の皆様の声を大切にしながら、皆様とともに考え、支え合って支部活動を進めていく所存です。今後とも変わらぬご支援、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。私の就任のご挨拶とさせていただきます。

★ 新役員紹介 ★



副支部長
吉村 明美
(広島市立舟入市民病院)
皆様のお力をお借りしながら、役割を果たせるように頑張ります。よろしくお願いいたします。



幹事
中山 雅子
(広島赤十字・原爆病院)
初めて役員をさせていただきました。不慣れですがよろしくお願いいたします。



幹事
松本 幸子
(広島市立広島市民病院)
初めて役員を務めさせていただきます。皆様のお力をお借りしながら中支部を盛り立てていきます。



令和6年度 事業報告

REPORT 01

中支部交流会 「人との良い関係作りは、親しみやすさと笑顔から
(～優しく親しみやすい表情を印象付けるポイント～)」

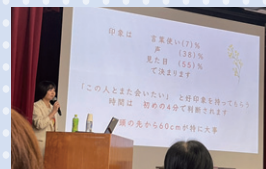
講師 ARSOA ECRU 藤崎 嘉江 先生 日時／令和7年4月19日(土) 場所／広島県看護協会

交流会で一番印象に残ったことは、セルフイメージは変えられるということでした。印象は見た目が55%で、口元で大部分が決まるということを知り、仕事では目元しか出ていないため、眉の書き方や表情筋をはぐし、日常のケアをしっかりと、はつらつと年を重ねていきたいと思いました。

国家公務員共済組合連合会吉島病院 辰巳 由美子

マスクをしていると患者さんは看護師の顔がみな同じに見え、笑顔も分かりにくいそうです。頬を上げて笑い、大きく頷いて聞くと親しみやすい雰囲気になるので、仕事の時だけでなく、普段から取り入れていきたいです。

広島市立舟入市民病院 田中 綾子



令和6年度 事業報告

REPORT 02

社会経済福祉研修会

「沈黙の疾患『骨卒中』～骨粗鬆症は単なる老化ではないんです～」

講師 広島記念病院 渥美 綾子 先生

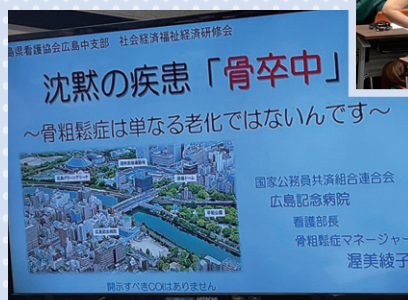
日時／令和6年9月21日(土)
場所／広島赤十字・原爆病院

大腿骨近位部骨折の5年生存率の低さと義歯を装着していない人は身体のバランスを取りにくく、転倒しやすい事に驚きました。また、検診率が低く、骨折して初めて骨粗鬆症と分かる人も多いと学んだので、身近な人にも検診を勧めたいと思いました。

たかの橋中央病院 平川 佳奈実

高齢化と医療の進歩に伴い、100歳でも手術ができる時代になった現代こそ、ADL、QOL低下の原因である骨折を予防するために、骨粗鬆症の知識やケアが必要であると学びました。健康寿命の延伸を目標に、日々のケアに励もうと思います。

中国電力株式会社中電病院 清水 芹奈



REPORT 03

救急蘇生(初級コース)研修会

講師 広島市立広島市民病院 集中治療室クリティカルケア認定看護師 貸川 雄介 先生

日時／令和6年10月5日(土)
場所／広島市立広島市民病院

今回、一次救命処置を実践形式で指導していただけたため、発見から応援要請・CPRからAEDまでの流れをよりわかりやすく理解することができました。臨床の場でなかなか急変に遭遇することがないため、とても貴重な体験をすることができました。

国家公務員共済組合連合会吉島病院 天野 美希

私の受講動機は、急変時の対応に不安があり、復習をかねて学び直したいという思いからです。テンポよくわかりやすい講義と、インストラクターから具体的な声かけや実践についてご指導いただき、すぐに現場で活用できる研修内容でした。今後は自信をもって救急蘇生に取り組めると思います。

広島市立広島市民病院 角本 こずえ



REPORT 04

組織強化研修会「災害支援ナースのこれからの活躍と役割について」

講師 北部医療センター安佐市民病院 長見 由美 先生

日時／令和6年11月16日(土)

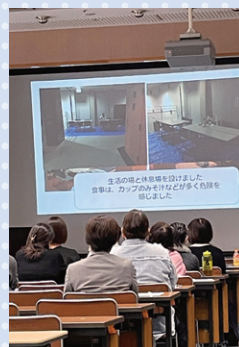
場所／広島市立広島市民病院

災害が多い日本にとって、災害支援ナースはとても重要で大きな役割を担っています。今回の研修で、災害支援ナースとして被災者の支援はもちろん、被災した看護職員の支援も改めて大切であると感じました。今後、自身のキャリアとして災害支援ナースを目指してみたいという気持ちになりました。

広島記念病院 下森 成

長見先生の災害支援の貴重な経験と養成研修での実践的なワークを通じ、災害支援ナースの具体的な役割や活動内容を理解することができ、積極的に発信していくことの重要性を学ぶことが出来ました。

土谷総合病院 小原 宏江



REPORT 05

関連職種研修会「オーラルフレイル」

講師 広島赤十字・原爆病院 歯科医師
広島市立広島市民病院 歯科衛生士
土谷総合病院 摂食嚥下障害看護認定看護師

明見 能成 先生
若松 和子 先生
河村 知恵 先生

日時／令和6年12月14日(土)

場所／広島市立広島市民病院



歯科口腔外科医師からは口腔疾患の手術の実際やリハビリができるまでの口腔環境を整えること、歯科衛生士からは口腔ケアの実際、摂食嚥下認定看護師からは栄養・運動療法をセットで介入することとポジショニングの大切さを学びました。どの先生もフレイルの状態は可逆性といわれ、フレイル段階での介入の必要性を学び今後に活かしていきたいです。

広島市立広島市民病院 古家 光江

今回研修に参加し、口腔フレイルには様々な要因があり、高齢者に限った問題ではないと新たな視点を学びました。食べる事は生きる上で楽しみとしても重要であり、日頃からフレイル予防の視点をもち、楽しい時間を長く保てるよう援助していきたいと改めて感じました。

広島赤十字・原爆病院 三戸 紫乃

REPORT 06

看護研究発表会

講師(指導教員) 広島文化学園大学 教授 佐藤 敦子 先生

日時／令和7年2月8日(土)

場所／広島市立広島市民病院

演題の身体抑制、意思決定支援などは、私たちが現場で直面する課題であり、興味深く、参考となる内容でした。また、研究が終わりではなく、多忙を極める現場であるからこそ、実践している看護はこれで良いのか、看護の質を保つにはどうしたら良いのか、研究を通して振り返り、繰り返し実践していくことの重要性を改めて認識することができました。

国家公務員共済組合連合会吉島病院 木下 美香



今回の看護研究発表会で、認知機能が低下している終末期患者の意思決定支援の大切さを学ぶことができました。患者の思いや能力を自己判断せず、認知機能が低下していても患者自身が理解し治療に前向きになれる看護をしていきたいです。

中国電力株式会社中電病院 南屋 有里

令和7年度 事業計画

令和7年9月20日(土)	社会経済福祉研修会
令和7年9月27日(土)	救急蘇生研修会
令和7年11月15日(土)	支部研修会・組織強化研修会
令和7年12月13日(土)	関連職種地域連携研修会
令和8年2月7日(土)	看護研究発表会



輝きびと 見つけた

専門職として輝いていると感じる時

広島市立広島市民病院 集中治療室クリティカルケア認定看護師 貸川 雄介



看護師として歩み始めてから、気がつけば20年以上の歳月が過ぎていました。あらためて、その長さ歩みを実感しています。就職活動に臨んだ当時は振り返ると、当時は男性看護師の採用に制限のある病院も少なくありませんでした。「看護婦」から「看護師」へと、社会の認識が変わり始めた、まさに転換期の真ただ中だったように思います。私は集中治療室での勤務を経て、認定看護師、そして特定看護師の資格を取得しました。専門職として20年以上続けてこれた理由、その原動力となってきた“魅力”について、改めて振り返りました。看護師は人と深く関わる仕事であり、人生の転機にある患者さんやそのご家族と接することは非常に責任ある、重要な役割を担っています。急性期病棟では、治療により回復する場合もあれば、そ

うでない場合もあります。患者さんの回復を共に喜ぶ瞬間がある一方で、ご家族の悲しみに寄り添う場面も、避けることはできません。「専門職として輝いている」と感じるのは、救命処置の最中や、生命維持装置を装着した重症患者さんのケアといった、いわゆる“特別な場面”ではないのだと、あらためて気づきました。それは、受け持ちの患者さんと何気ない会話をしているとき。たとえば「元気になったら何をしたいですか?」といった他愛もないやり取りを交わす時間。そのような日常こそが、患者さんやご家族にとってかけがえのない、貴重な瞬間であると感じています。そうした場面に立ち会わせていただけることこそが、私にとって「輝いている瞬間」であり、この仕事の魅力なのだと、あらためて実感しています。これからも、一緒に働くスタッフと力を合わせ、患者さんやご家族に安全で安心していただける治療・ケアを提供していくことが、私の役割だと感じています。

編集後記

支部だよりをお読みいただきありがとうございます。今回の発行にあたり、ご協力いただいた講師の皆様、ご参加の皆様、支部役員の皆様に感謝申し上げます。

看護を取り巻く環境は日々変化しており、専門性と連携の重要性が高まっています。こうした中、支部活動が学びと繋がり場となるよう、今年度も事業を企画しています。多くの皆様にお会いできますことを心より楽しみにしております。

曾根 知恵

[発行日] 令和7年9月発行

[発行所] 公益社団法人広島県看護協会 広島中支部事務所
〒730-0051 広島市中区大手町4-6-11 ミーニューカーザ310号
TEL/FAX 082-248-2500
E-mail: s-naka@nurse-hiroshima.or.jp

[発行責任者] 兼重 薫子